

創刊110周年記念
誇れるふるさと
24地区リレー
〈vol.15〉

〈藤山② 課題とキーマン〉

藤山地区には国道190号が横断し、市の中心部と厚東川以西とのアクセスに大きな役割を果たしてきた。一方、特に交通量の多い藤山交差点は、大雨での冠水がかねての課題。住民は藤曲に新設される玉川ポンプ場の排水効果に大きな期待を寄せる。また、地区は厚東川と接するため、自主防災会を中心に台風での高潮対策に取り組むなど、水災への備えが重要となっている。



玉川ポンプ場の冠水対策が期待される藤山交差点

文教地区の強み、災害避難に

教育機関と合同訓練 生徒が園児の手を引き

藤山交差点の冠水は年に数回発生。近年の豪雨の頻発により、大規模な排水施設の必要性が高まっている。玉川ポンプ場は鵜の島ポンプ場と栄川ポンプ場の汚水や雨水の排水機能を集約した施設で、2024年4月の使用開始を予定している。

どの訓練に取り組んでも5年前から地区内の教育機関などの合同避難訓練を始めた。避難場所の藤山小まで同会の会員が子どもたちを誘導。藤山中の生徒が隣接する宇部フロンティア大付属幼稚園の園児の手を引いて避難するなど、文教地区の強みを最大限に生かした。

高潮が地区に大きな被害をもたらしたのは、1942年の周防灘台風。居能町では、かもしまで漬かった家もあったという。自主防災会では他地区と同様、土のう作りな

村上和正副会長(73)は「文教地区ならではの取り組み。将来的にはすべての教育機関が参加する形で実施したい」と話した。